

# 林業王樹善院

## 故土倉庄三郎翁

千年杉と十倉庄三郎翁（右より二人目）

大和大瀧樹谷林生堂発行

大正 10 年（1921）～昭和 8 年（1933）発行

写真提供：成瀬匡章氏



（行瀬聖生館谷林堂大和太）

（目人ニリ有）翁三庄倉土杉年千

奈良の木のこと

# 『奈良の木づかい』

奈良の木と健康 編

令和元年（2019）9月30日発行

奈良県水循環・森林・景観環境部 奈良の木ブランド課

日本で最も植林の歴史が古い地域 奈良県  
吉野林業の歴史

### 吉野林業の歴史

日本で最も植林の歴史が古い地域 奈良県

since 1500

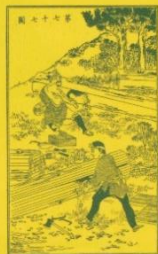
09

太閤秀吉の城づくりにも使われた「吉野の木」

足利末期の1500年頃、奈良県の吉野地方で初めて人の手によって木が植えられたという記録があります。豊田秀吉が当地を領有し、大阪城や伏見城をはじめとする畿内の城郭や寺社仏閣に、吉野の木が使用されるようになりました。その後、徳川幕府の直轄となってからも林業は住民の生業として、吉野の地に深く根付いていきました。最大の木材消費地である大阪に近く、吉野川の水運によって輸送が発達したことが、木材の商品化を進展させました。また、間伐材を取種・販売する仕組みを生み出し、これが高度な育成林業の出発点となったのです。



小川村(現東吉野村) 橋通橋の下流堰に漂く筏(写真「吉野山林写真集」より)



「吉野林業全書」より明治31年出版

since 1720

吉野の木は「節が少なく、年輪が細かく、まっすぐな材」なので、水が漏れにくく酒樽をつくるための材料(樽丸)に最適でした。この頃から、すでに商品価値の高い優良木材を生産しており、吉野林業は「樽丸林業」とも言われてきたのです。また、江戸時代、品質が優れた上方の酒はスギの酒樽に詰められ、船によって江戸へと運ばれていました。その間に酒にスギの香りがつくことによって、独特の香りと味になり、江戸の人々に喜ばれました。



南方野村(現下市町)・風瀬村から岩保峠を通り、樽丸を運ぶ主幹(写真「吉野山林写真集」より)

「樽丸林業」と称された吉野の山づくり



川上村 神の谷の木馬出しの様子(写真「吉野山林写真集」より)

木は、薪や建築用材、肥料や道具など、日本人の生活に昔から、無くてはならない存在だった

10

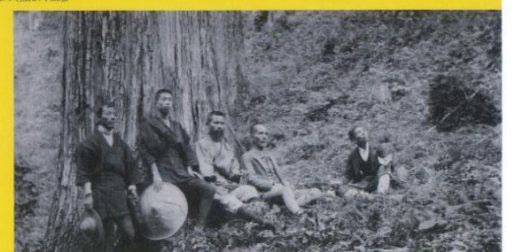
since 1850

吉野の地に「造林王」現る

1840年、吉野郡川上村の山林地主の家に、のちに「造林王」と呼ばれる土倉庄三郎が生まれました。土倉は15歳で家業を継ぎ、林業の発展に力を入れました。例えば、苗木を密集して植えることと丁寧な育成により、優れた木材を生産できるように工夫した「土倉式造林法」という独自の育成方法を体系化し、全国に普及。その技術は各地で成果をあげました。また、木を運び出すために道路や川を整備するなど、日本の林業の発展に多大な貢献をしました。それ以外にも、小学校の開設、同志社大学・日本女子大学などの創立援助や自由民権運動など幅広く活躍しています。1917年に亡くなった後には、その多大な功績を記念して川上村大滝の岩に「土倉翁造林頌徳記念」の文字が刻まれた碑が建立されました。今でも彼の魂が、吉野の山々をやさしく見守っているようです。



「吉野林業全書」より明治31年出版



千年杉と土倉庄三郎翁(右から二人目)「大和大瀧樹谷林生堂発行」より(写真:成瀬匡章、奈良県立図書館情報科学写真所蔵)